

# 長期戦略:テーマ 「個別研究の活性化」

提出日 2019年 8月 28日

担当部署

## Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	長峯研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構
-----------------------	-------------------------------	---------------	------------

### 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(1)-⑥ 学内研究費や外部資金の間接経費等を傾斜配分する方策の検討	(2019)年度	(2022)年度	必要なし	不要
<b>内容</b>				
<p>一定の実績のある(実績を上げつつある)教員、外部資金獲得をめざす教員、海外研究機関等との共同研究を進める教員、若手教員(以下、「対象教員」)への傾斜配分(選択と集中)方法について、検討を行う。なお、検討に際しては、長期戦略テーマ「個別研究の活性化」及び「研究ブランドの確立」における各実施計画とリンクさせる。</p> <p><b>【学内研究費】</b> 個人特別研究、大学共同研究その他各種学内研究助成制度の再編により、対象教員への傾斜配分(選択と集中)を実現する。また、個人研究費については、外部資金獲得や論文執筆等、長期戦略「研究」において設定した各指標の達成に寄与した実績を反映できる制度に変更することを含めて検討する。まずは、必須課題の一つである KSC 活性化とも関連する理工学部から検討を始める。</p> <p><b>【間接経費等】</b> 間接経費等を原資とした、対象教員への傾斜配分(選択と集中)を実現する。なお、原資となる間接経費等が枯渇することの無いよう、外部資金獲得を前提とした配分を原則とする(=間接経費等の拡大再生産)。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	【学内研究費】対象教員への傾斜配分(選択と集中)が実現できたか	長期戦略の指標達成を主眼に置いた対象教員への傾斜配分(選択と集中)が実現されたか否か		
指標2	【間接経費等】対象教員への傾斜配分(選択と集中)が実現できたか	長期戦略の指標(特に外部資金獲得)達成を主眼に置いた対象教員への傾斜配分(選択と集中)が実現されたか否か		
指標3				

## 目標1&lt;指標1&gt;【学内研究費】対象教員への傾斜配分(選択と集中)が実現できたか

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	他大学の事例収集・分析	方向性(実施計画3-(1)-③の評価要素と連動)の検討・策定	策定した方向性に応じた具体的配分案の検討・策定	導入・実施
実績				

## 目標2&lt;指標2&gt;【間接経費等】対象教員への傾斜配分(選択と集中)が実現できたか

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	他大学の事例収集・分析	方向性(実施計画3-(1)-③の評価要素と連動)の検討・策定	策定した方向性に応じた具体的配分案の検討・策定	導入・実施
実績				

## 目標3&lt;指標3&gt;

	( )年度	( )年度	( )年度	4年目以降
目標				
実績				

## 2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
【学内研究費】傾斜 配分(選択と集中)	策定段階	他大学の事例収集・分 析	方向性(実施計画 3- (1)-③の評価要素と連 動)の検討・策定	策定した方向性に応じ た具体的配分案の検 討・策定	導入・実施	実施
	2020 年 3 月 末段階	—	—	—		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2020 年 3 月 末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
【間接経費等】傾斜 配分(選択と集中)	策定段階	他大学の事例収集・分 析	方向性(実施計画 3- (1)-③の評価要素と連 動)の検討・策定	策定した方向性に応じ た具体的配分案の検 討・策定	導入・実施	実施
	2020 年 3 月 末段階	—	—	—		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2020 年 3 月 末段階					

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	( )年度	( )年度	( )年度	4年日以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	( )年度	( )年度	( )年度	4年日以降
非公開				

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	
( ) 年度	
( ) 年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	ロードマップに則り他大学の事例収集・分析を進めるとともに、理工学部と連携して素案の作成を進めている。2020 年度には具体的な施策について検討を進められる予定。
(2020) 年度	
(2021) 年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2019 年度	—
2020 年度	
( ) 年度	